

Close-up Interview (5月号 表紙の顔)

# 幸木 百合菜

YURINA KOKI

「普段はあまり緊張しないタイプなのに、  
ジャパンオープンではメチャメチャ緊張しました」

プロ3年目、弱冠20歳の幸木プロ。昨秋のジャパンオープンを制し、53期生では中島瑞葵に続く2人目のタイトルホルダーとなった。今年仲間入りを果たしたP★Leagueでのキャッチフレーズは「無邪気なスピードボウラー」。身長151㎝と小柄ながら「速いアプローチから投げ込むスピードボールがアピールポイント」という、元気ハツラツのレフティだ。(PHOTO: 福地和男)



## 中学卒業時に起こした「奇跡」

ボウリングを始めたのは「中1の夏ごろ」というから、キャリアはまだ10年に満たない。

「博多スターレーンの会員ボウラーだったお母さんに『あなたも何かひとつスポーツをやんなさい』と言われて、『じゃあボウリングでいいや』と(笑)。でも、やると決めたその日から一人でスターレーンに行きつけていました」

当初は「スコアが100もいかないくらい下手くそだった」が、センターのジュニアクラブでプロの指導を受け、少しずつ上達していくと「投げるのが楽しくて、ボウリングが大好きになった」という。その後JBCに入会し、競技会にも数多く出場するようになった幸木は2018年、中3最後の全国大会で「周りも自分もビックリ」のミラクル? を起こす。

「それまでは県大会入賞程度で誇れるような成績がなかったのに、全日本選手権のマスターズ戦で4位に入賞して、入りたいと思っていた福岡第一高校のボウリング部から推薦をもらうことができたんです(笑)」

全日本選手権の開催日は卒業式後の3月下旬。まさにギリギリのタイミングでつかんだ幸運の切符だった。

その名門ボウリング部時代の幸木は、1年時と3年時に2人チーム戦の全国高校対抗選手権で優勝。1年時のパートナーは、プロで同期となる1年先輩の原野萌花だった。

「入部した当時、女子は原野さん一人しかいなくて、『一緒

に出たいね』と言っていた大会で、いきなり二人で優勝できたのは本当にうれしかったです」



▲(左)ジャパンオープン優勝時の幸木。1年目、2年目の順位戦も1位と稲沢グランドボウルとの相性は抜群だ(右)「なかなかやせなくて(苦笑)」という幸木だが、RIZAPでのトレーニング効果は確実にあるという

## プロテストは「受験料免除」で

高校時代の幸木には、もうひとつ「勲章」がある。2年時(19年)と3年時(20年)に、JPBAのレディース新人戦アマの部で2連覇を果たしているのだ。

19年の優勝決定戦で破った相手は、同郷のライバルで現在同期の中島瑞葵。だが、幸木がプロ入りの意思を固めたのは翌20年のことだった。

「2度目に優勝したときの副賞がプロテストの受験料免除で、しかも有効期限が1年だったんです(笑)。瑞葵ちゃんも原野さんも『プロになりたい』と言っていたので、私も同じタイ

ミングでテストを受けられたらいいな、と」

約1年の準備期間は「アルバイトをしながら、県内のいろいろなセンターを回って毎日10ゲーム以上投げていた」そうだ。「お母さんの仕事の都合もあって、プロテストは東日本の会場で行うことになりました。で、テストの1カ月前に単身上京して、ここ(アイビーボウル向島)で練習を積みました」

同センターを拠点としたのは、知り合いだった所属プロの

森本健太(51期)を通じて誘いを受けたから。コロナ禍での初受験となった21年、同じ左投げで優勝4回のプロがそばにいる絶好の環境を得た幸木は、第1次実技テストを見事トップで突破する。しかし――。

「2次テストのレーンが本当に難しくて…。最終的に5人しか受からなかったけど、私もアベレージが192くらいまで落ちて、けっこうギリギリでした(5人中5位で合格)。プロになる条件でここに来た

のに、もし落ちたらどうしよう、と(苦笑)」

そんな難関を突破した53期生は、「出戻り同期」の清水弘子が「みんな若くて勢いがある。ホントにすごい」と評するほど粒揃いだ。デビュー2連勝を飾ったトップ合格の中島をはじめ堀井春花、原野も最初のシーズン(20-21年)で第2シード入りを決めた。ランキング80位に終わり、ひとり置いて行かれた格好の幸木も、2度の順位戦はともに1位と、実力の片りんを覗かせていた。

## 初Vの要因はRIZAP効果!?

順位戦の会場は稲沢グランドボウル。思えば中3時の「ミラクル全日本」も、そして昨秋初優勝を飾ったジャパンオープンも稲沢が会場だった。

「稲沢とは本当に相性がいいので、準決勝まで行って賞金ももらえたらいいなと思ったけど、出場選手も多いし、優勝できるとは1ミリも考えていませんでした。プロになって上位8人に残るのも初めてだったので、普段はあまり緊張しないタイプなのに、ジャパンオープンはメチャメチャ緊張しました」

それでも優勝できたのは、決してセンターとの相性のよさだけが理由ではないようだ。

「大会の1、2カ月前からRIZAPに通い始めて、ボウリングにはどこを鍛えたらいいかとかもアドバイスしてもらって、それをきっかけにどんどん調子が上がっていったんです。女子プロの間では『RIZAPに通うと優勝できる』というジンクス? があって、山田幸プロ、三



▲同じアイビーボウル向島所属の森本健太(左)は優勝4回を誇るトップクラスのレフティ。「優しくて頼りがいのある先輩です」と幸木

浦美里プロと私ができるので(笑)。少し体重を落としたいので、RIZAPには今も通っていますが、なかなかやせなくて(苦笑)」

優勝者枠で第1シード入りした今季初戦のKUWATA CUPは準々決勝で敗退(総合29位)。東京体育館特設レーンの夢舞台で優勝に輝いたのは、幸木がジャパンオープンの優勝決定戦で破った左投げの大嶋有香(49期)だった。

「左が多く残っていたのに、私は予選のスタートがいきなり143で、取り戻すのに時間がかかってしまって…。今年はポイントでシードを勝ち取りたいので、これからは左にチャンスがあるときは絶対逃さないようにしたいです」

あと3回出場機会のあるレディース新人戦の優勝も目標のひとつだという。

「新人戦は1回しか優勝のチャンスがない大会だし、過去にプロとアマの両方で優勝した選手もいないと思うので(笑)。それに、1勝しただけではブロックだと思われるので、できるだけ早く2勝目を挙げたいですね」

取材協力: アイビーボウル向島

## 幸木プロと一緒に投げよう! 近日開催のチャレンジマッチ

- 5月12日 三重・オレンジボウルイオンモール桑名店 ※with大塚由奈
- 5月13日 愛知・サンボウル岡崎
- 5月14日 愛知・知立イーグルボウル
- 5月17日 埼玉・ニューパールレーン武里
- 5月20日 埼玉・ジョイナスボウル ※with久保田彩花
- 5月21日 神奈川・大磯プリンスホテルBC
- 6月3日 神奈川・相模原パークレーンズ
- 6月4日 東京・立川スターレーン
- 6月8日 神奈川・ボウリング王国スポーツ八景店

こうき・ゆりな / 2002年8月22日生まれ、福岡県出身。151㎝、左投げ。血液型O。21年プロ入り(53期/ライセンスNo.586)。優勝1回。22年度ポイントランキング22位、アベレージ206.23。アイビーボウル向島所属。